

文部科学大臣優秀教職員表彰ニュース

令和6年2月発行 京都市教育委員会 教職員人事課

文部科学省では、平成18年度から学校教育において教育実践等に顕著な成果を上げている全国の教職員を表彰し、意欲及び資質能力の向上に資することを目的に「優秀教職員表彰」が行われており、第18回目となる今年度は全国から825名、61団体の優秀な教職員が表彰され、本市からは、7名（小3名・中1名・支援1名・栄養教諭1名・事務職員1名）及び1団体が受賞しました。また、4年ぶりに東京大学の安田講堂で表彰式典が行われました。全国の受賞者が一堂に会され、参加した受賞者の皆様は、今後の教育実践等への意欲をさらに高められました。

受賞者の皆様



開晴小中学校
目黒 詩子 教諭



御所南小学校
谷口 真由 教諭



錦林小学校
木村 良 主幹教諭



久世中学校
今河 慶昭 教諭



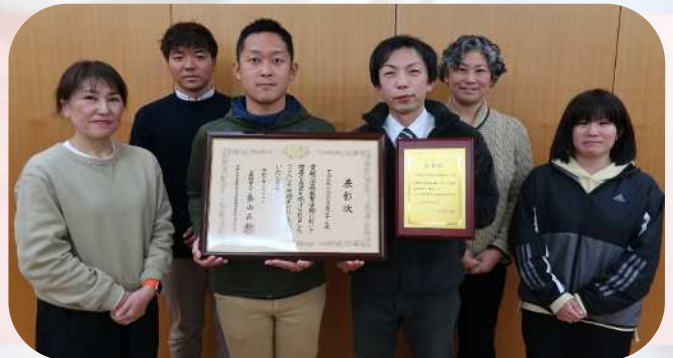
桃陽総合支援学校
千代 優樹 教諭



高倉小学校
梶浦 祥代 栄養教諭



西院中学校
八木 香苗 事務職員



下京中学校「総合的な学習推進」チーム



「文部科学大臣優秀教職員表彰」の御受賞、誠にありがとうございます。受賞されました7名と1団体の皆様が、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という京都市教育の基本理念を見事に体现され、本市教育の充実に御尽力いただいておりますことに、心から敬意と感謝の意を表します。この度の御受賞を機に、子どもたちを取り巻く環境、社会構造が大きく変化する予測困難な時代においても、自信と自覚をもって、ますます御活躍され、優れた教育実践を波及させながら、御自身の輝きを京都市全体に広められることを御期待申し上げます。受賞者の皆様をはじめ、全ての教職員の皆様におかれましても、学校・幼稚園が社会のセーフティネットとしての役割を果たし、子どもたちが、自身の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、これからの未来社会を生きぬくことができるように、今後一層、本市教育の充実に御尽力いただきますことをお願い申し上げます。 京都市教育長 稲田 新吾